

2021年度
金沢学院短期大学
学生の学修状況・学修成果等の検証
報告書

2022年3月31日
金沢学院短期大学

目次

I. アドミッションポリシーの評価	3
1. 評価資料	3
1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか	3
1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思	3
1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか	3
1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか	4
2. 各学科の評価	9
2-1. 現代教養学科	9
2-2. 食物栄養学科	12
2-3. 幼児教育学科	15
3. 短期大学のアドミッションポリシーに関する総合評価	18
II. カリキュラムポリシーの評価	19
1. 評価資料	19
2. 各学科の評価	20
2-1. 現代教養学科	20
2-2. 食物栄養学科	21
2-3. 幼児教育学科	22
3. カリキュラムポリシーに関する総合評価	23
III. ディプロマポリシーの評価	24
1. 評価資料	24
2. 各学科の評価	25
2-1. 現代教養学科	25
2-2. 食物栄養学科	25
2-3. 幼児教育学科	26
3. ディプロマポリシーに関する総合評価	26

I. アドミッションポリシーの評価

1. 評価資料

1-1. 一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか（表 1 参照）

入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均を、大学全体・短期大学全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均を、短期大学全体の平均と比較して+5点以上のものを「学内平均を上回った」、±5点の範囲のものを「学内平均と同程度」、-5点以下のものを「学内平均を下回った」と表記した。

短期大学全体の基礎学力確認テストの受験者は146名（昨年度比+21名）であった。

平均点は、英語（35点満点）が15.4点（ $SD=5.98$ ）で昨年度比-2.2点、数学（30点満点）が20.3点（ $SD=4.24$ ）で昨年度比+0.2点、2科目の総合成績（65点満点）が35.7点（ $SD=8.90$ ）で昨年度比-2.0点であった。英語の成績が下がったことが、そのまま総合成績に反映されている。標準偏差については、英語、数学、総合成績のいずれも昨年度よりやや小さくなっている。

比較対象としている昨年度の基礎学力確認テストは、新型コロナウイルス感染症への対策としてガイダンスの短縮等を図ったため、入学直後にすべてのテストを実施した学科と、入学直後には英語のみを実施して、前期末に数学を追加実施した学科がある。そのため、今年度の成績との比較には注意が必要である。

1-2. 入学時の学修意欲と学修継続の意思

1-2-1. 学ぶ意欲のある学生が入学してきたか（表 2-1, 2-2 参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全23項目）から、学修意欲と学修への興味関心を問う2つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を短期大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」

①とても持っている ②まあまあ持っている ③あまり持っていない ④持っていない

項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」

①一致している ②一致していないが、興味関心に近い分野 ③興味関心とは異なる分野

④まだ自分の興味関心がわからない ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない

⑥その他

である。

集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。また、2020年度は新型コロナウイルス感染症への対策として新入生の登校を制限したことから、このアンケートが未実施であるため、昨年度との比較はできない。

学修意欲を尋ねる項目2の有効回答数は、短期大学全体で146名分であった。回答の内訳は以下の

通りである（表 2-1）。

- ①とても持っている：71 名（48.6%）
- ②まあまあ持っている：70 名（47.9%）
- ③あまり持っていない：4 名（2.7%）
- ④持っていない：1 名（0.7%）

選択肢①と選択肢②の合計は 96.6%であり（上記一覧の数値と一致しないのは、小数第 2 位以下の丸め方によるもの）、短期大学全体で見た場合は、入学後の学修に対して意欲的な学生が入学してきたと言える。

入学した学科の学問分野と興味関心の一致の程度を尋ねる項目 23 の有効回答数は、短期大学全体で 146 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 2-2）。

- ①一致している：117 名（80.1%）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：19 名（13.0%）
- ③興味関心とは異なる分野：3 名（2.1%）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：6 名（4.1%）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1 名（0.7%）
- ⑥その他：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 93.2%であり（上記一覧の数値と一致しないのは、小数第 2 位以下の丸め方によるもの）、短期大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

1-2-2. これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか（表 3-1, 3-2, 3-3 参照）

入学直後に実施した新入生向けのアンケート（全 23 項目）から、今後の学修や短期大学での大学生活への期待感、大学生活へのイメージの有無を問う 3 つの質問項目を取り出して、選択肢ごとの人数比率を短期大学全体と学科別に算出した。分析対象とした項目は、

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」

- ①とても楽しみ ②まあまあ楽しみ ③あまり楽しみではない ④楽しみではない

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」

- ①ある ②まあまあある ③あまりない ④ない

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」

- ①とてもそう思う ②どちらかといえばそう思う
- ③あまりそう思わない ④まったくそう思わない

である。

集計の際、回答ミス等の欠損値を削除して比率を算出したため、それぞれの質問項目の総回答数は一致しない。また、2020 年度は新型コロナウイルス感染症への対策として新入生の登校を制限したこ

とから、このアンケートが未実施であるため、昨年度との比較はできない。

短期大学での大学生活への期待感を尋ねる項目 4 の有効回答数は、短期大学全体で 146 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 3-1）。

- ①とても楽しみ：38 名（26.0%）
- ②まあまあ楽しみ：102 名（69.9%）
- ③あまり楽しみではない：3 名（2.1%）
- ④楽しみではない：3 名（2.1%）

選択肢①と選択肢②の合計は 95.9%であり、短期大学全体で見た場合は、これからの学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

短期大学での今後の大学生活へのイメージ形成の程度について尋ねる項目 9 の有効回答数は、短期大学全体で 146 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 3-2）。

- ①ある：13 名（8.9%）
- ②まあまあある：75 名（51.4%）
- ③あまりない：56 名（38.4%）
- ④ない：2 名（5.4%）

選択肢①と選択肢②の合計は 60.3%である。短期大学全体でも学科別でも、最も回答が多くなるのは選択肢②または選択肢③である。今後の大学生活へのイメージは、一部の学生ではできあがっているが、その程度がやや低い学生も 4 割程度いることがわかる。当該の学年が高校 3 年生であったときに新型コロナウイルス感染症が広がり、オープンキャンパスなどの進学イベントに十分参加できなかったことも影響している可能性がある。

この短期大学で学び続けられそうか(入学してよかったと思うか)を尋ねる項目 22 の有効回答数は、短期大学全体で 146 名分であった。回答の内訳は以下の通りである（表 3-3）。

- ①とてもそう思う：68 名（46.6%）
- ②どちらかといえばそう思う：75 名（51.4%）
- ③あまりそう思わない：2 名（1.4%）
- ④まったくそう思わない：1 名（0.7%）

選択肢①と選択肢②の合計は 97.9%であり、短期大学全体で見た場合は、本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

表 1 基礎学力確認テストの学科別成績一覧

英語	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	52	15.0	6.49	32	0
食物栄養学科	46	17.1	5.43	29	4
幼児教育学科	48	14.2	5.55	28	4
全体	146	15.4	5.98	32	0

数学	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	52	20.3	3.59	28	11
食物栄養学科	46	20.7	4.76	28	9
幼児教育学科	48	19.9	4.33	26	10
全体	146	20.3	4.24	28	9

総合（英語＋数学）	人数	平均	<i>SD</i>	最高	最低
現代教養学科	52	35.3	8.91	56	18
食物栄養学科	46	37.7	8.51	54	16
幼児教育学科	48	34.1	8.87	53	17
全体	146	35.7	8.90	56	16

表2-1 項目2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とても持っている	28.8	58.7	60.4	45.6
まあまあ持っている	63.5	41.3	37.5	50.4
あまり持っていない	5.8		2.1	3.2
持っていない	1.9			0.8

表2-2 項目23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、
あなたの興味関心は一致していますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
一致している	67.3	80.4	93.8	80.1
一致していないが、 興味関心に近い分野	23.1	13.0	2.1	13.0
興味関心とは異なる 分野	1.9	4.3		2.1
まだ自分の興味関心 がわからない	5.8	2.2	4.2	4.1
入学した学部・学科・ 専攻の内容がよくわ からない	1.9			0.7
その他				

表3-1 項目4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とても楽しみ	19.2	21.7	37.5	26.0
まあまあ楽しみ	71.2	76.1	62.5	69.9
あまり楽しみではない	3.8	2.2		2.1
楽しみではない	5.8			2.1

表3-2 項目9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
ある	7.7	6.5	12.5	8.9
まあまあある	44.2	60.9	50.0	51.4
あまりない	44.2	32.6	37.5	38.4
ない	3.8			1.4

表3-3 項目19「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学して
よかったと思いますか」への回答

回答	現代 教養	食物 栄養	幼児 教育	全体
とてもそう思う	40.4	39.1	60.4	38.0
どちらかといえばそう思う	57.7	58.7	37.5	55.5
あまりそう思わない		2.2	2.1	5.4
まったくそう思わない	1.9			1.1

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：15.0 ($SD = 6.49$)，数学：20.3 ($SD = 3.59$)，総合 35.3 ($SD = 8.91$)

現代教養学科の基礎学力確認テストの受験者数は 52 名であった。英語，数学，総合成績のいずれも短期大学の平均とほぼ同じであった。総合成績の平均は 35.3 点 ($SD = 8.91$) で，短期大学の平均 (35.7 点) よりも 0.4 点低く，昨年度比では -1.7 点であった。英語は昨年度比で -2.2 点であったが，数学は +0.5 点とわずかに上がった。受験者数は昨年度より 9 名増えている。昨年度と学力的にはほぼ同等であると言える。

本学科では，エントリー入試以外に入学者が 10 名を超える入試区分がなく，入試区分別の比較は妥当ではない。総合成績において短期大学の平均以上または平均並みであった受験者は 67.3% で，昨年度比で 4.8 ポイント減少した。短期大学の平均 -1 標準偏差以下 (受験者全体の下位 15.93%) に相当する受験者の比率は 13.5% で，昨年度比で 3.8 ポイント上昇した。

評価

基本的な学力は短期大学の平均並みで，学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」(表 2-1)

有効回答数：52 名分

- ①とても持っている：15 名 (28.8%)
- ②まあまあ持っている：33 名 (63.5%)
- ③あまり持っていない：3 名 (5.8%)
- ④持っていない：1 名 (1.9%)

選択肢①と選択肢②の合計は 92.3% であった。短期大学全体の数値 (96.0%) よりも低い，学修意欲があると回答した学生が 90% を超えており，学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：52 名分

- ①一致している：35 名 (67.3%)
- ②一致していないが，興味関心に近い分野：12 名 (23.1%)
- ③興味関心とは異なる分野：1 名 (1.9%)

- ④まだ自分の興味関心がわからない：3 名（5.8%）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：1 名（1.9%）
- ⑥その他：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 90.4%であった。短期大学全体の数値（93.2%）よりはやや低いが、興味関心があると回答した学生が 90%を超えており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：52 名分

- ①とても楽しみ：10 名（19.2%）
- ②まあまあ楽しみ：37 名（71.2%）
- ③あまり楽しみではない：2 名（3.8%）
- ④楽しみではない：3 名（5.8%）

選択肢①と選択肢②の合計は 90.4%であった。短期大学全体の数値（95.9%）よりもやや低いが、90%以上の学生が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表 3-2）

有効回答数：52 名分

- ①ある：4 名（7.7%）
- ②まあまあある：23 名（44.2%）
- ③あまりない：23 名（44.2%）
- ④ない：2 名（3.8%）

選択肢①と選択肢②の合計は 51.9%である。短期大学全体の数値（60.3%）よりも低く、半数の学生が今後の大学生活へのイメージを持てていないことを示している。この項目で問うているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表 3-3）

有効回答数：52 名分

- ①とてもそう思う：21 名（40.4%）
- ②どちらかといえばそう思う：30 名（57.7%）
- ③あまりそう思わない：0 名（0.0%）
- ④まったくそう思わない：1 名（1.9%）

選択肢①と選択肢②の合計は 98.1%であり、短期大学全体の数値（93.5%）よりも高く、全学科の中

で最も高い数値となった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、現代教養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-2. 食物栄養学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：17.1 ($SD = 5.43$)，数学：20.7 ($SD = 4.76$)，総合 37.7 ($SD = 5.51$)

食物栄養学科の基礎学力確認テストの受験者数は 46 名であった。英語，数学，総合成績のいずれも短期大学の平均をやや上回った。総合成績の平均は 37.7 点 ($SD = 8.51$) で，短期大学の平均 (35.7 点) よりも 2.0 点高くなったが，学科の昨年度比では -1.9 点であった。受験者数は昨年度よりも 14 名減少している。学力は昨年度とほぼ同等であると考えられる。

本学科では指定校推薦に入学者が偏っており，それ以外の入試区分ではすべて 1 ケタ台であるため，入試区分別の比較は妥当ではない。総合成績において短期大学の平均以上または平均並みの成績であった受験者は全体の 78.8% で，昨年度比で 1.2 ポイント減少した。短期大学の平均 -1 標準偏差以下 (受験者全体の下位 15.93%) に相当する受験者の比率は 6.5% で，昨年度比で 2.3 ポイント減少した。

総合評価

基本的な学力は短期大学の平均よりもやや高く，学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2 「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」(表 2-1)

有効回答数：46 名分

- ①とても持っている：27 名 (58.7%)
- ②まあまあ持っている：19 名 (41.3%)
- ③あまり持っていない：0 名 (0.0%)
- ④持っていない：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 100% に達し，短期大学全体の数値 (96.0%) より高く，全学科の中で最も高い数値となった。全員が，学修意欲があると回答しており，学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23 「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」(表 2-2)

有効回答数：52 名分

- ①一致している：37 名 (80.4%)
- ②一致していないが，興味関心に近い分野：6 名 (13.0%)
- ③興味関心とは異なる分野：2 名 (4.3%)
- ④まだ自分の興味関心がわからない：1 名 (2.2%)

⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0名（0.0%）

⑥その他：0名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 93.5%（上記一覧の数値と一致しないのは、小数第 2 位以下の丸め方によるもの）で、短期大学全体の数値（93.2%）とほぼ同じであった。食物栄養学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に興味関心があると回答した学生が 90%を超えており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：46 名分

①とても楽しみ：10 名（21.7%）

②まあまあ楽しみ：35 名（76.1%）

③あまり楽しみではない：1 名（2.2%）

④楽しみではない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 97.8%で、短期大学全体の数値（95.9%）とほぼ同じであった。ほぼ全員が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表 3-2）

有効回答数：46 名分

①ある：3 名（6.5%）

②まあまあある：28 名（60.9%）

③あまりない：15 名（32.6%）

④ない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 67.4%である。短期大学全体の数値（60.3%）よりも高いが、約 4 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持てていないことを示している。この項目で問うているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表 3-3）

有効回答数：46 名分

①とてもそう思う：18 名（39.1%）

②どちらかといえばそう思う：27 名（58.7%）

③あまりそう思わない：1 名（2.2%）

④まったくそう思わない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 97.8%であり、短期大学全体の数値（93.5%）よりも高くなった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、食物栄養学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

2-3. 幼児教育学科

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：14.2 ($SD=5.55$)，数学：19.9 ($SD=4.33$)，総合 34.1 ($SD=8.87$)

幼児教育学科の基礎学力確認テストの受験者数は 48 名であった。英語，数学，総合成績のいずれも短期大学の平均を下回った。総合成績の平均は 34.1 点 ($SD=8.87$) で，短期大学の平均 (37.7 点) よりも 3.6 点低いが，昨年度比では +0.3 点であった。受験者数は昨年度よりも 26 名増えており，その上での数値であることから，統計的に考えて昨年度よりも正確な学力を反映している可能性が高いと考えられる。また，今年度の分析対象となった受験者には社会人入試による入学者が含まれているが，これらの受験者を除外して成績を算出しても，英語で 0.8 点，数学で 0.3 点，総合成績で 1.1 点上昇するに過ぎず，学科の成績に大きな影響を与えているとは考えにくい。

本学科では，附属高校選抜と指定校推薦の入学者が多く，その他の入試区分に入学者が 10 名を超える区分がないため，入試区分別の比較は妥当ではない。総合成績において短期大学の平均以上または平均並みの成績であった受験者は 68.8% で，昨年度比で 1.2 ポイント上昇した。短期大学の平均 -1 標準偏差以下（受験者全体の下位 15.93%）に相当する受験者の比率は 25.0% で，昨年度比で 13.0 ポイント増加した。したがって，下位に位置する入学者の存在によって，短期大学内での学力が相対的に低く出ている可能性がある。

総合評価

基本的な学力が短期大学の平均よりも低い，学修に必要な基礎学力は備えていると考えられ，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし，一部の学生については，今後の学修状況に注意が必要であるかもしれない。

学ぶ意欲のある学生が入学してきたか

項目 2「大学／短大入学後の勉強にどれくらいやる気を持っていますか」（表 2-1）

有効回答数：48 名分

- ①とても持っている：29 名 (60.4%)
- ②まあまあ持っている：18 名 (37.5%)
- ③あまり持っていない：1 名 (2.1%)
- ④持っていない：0 名 (0.0%)

選択肢①と選択肢②の合計は 97.9% で，短期大学全体の数値 (96.0%) とほぼ同じであった。学修意欲があると回答した学生が 90% を超えており，学修意欲のある学生が入学したと言える。

項目 23「あなたが入学した学部・学科・専攻・コース等の学問分野と、あなたの興味関心は一致していますか」（表 2-2）

有効回答数：48 名分

- ①一致している：45 名（93.8%）
- ②一致していないが、興味関心に近い分野：1 名（2.1%）
- ③興味関心とは異なる分野：0 名（0.0%）
- ④まだ自分の興味関心がわからない：2 名（4.2%）
- ⑤入学した学部・学科・専攻の内容がよくわからない：0 名（0.0%）
- ⑥その他：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 95.8%（上記一覧の数値と一致しないのは、小数第 2 位以下の丸め方によるもの）で、短期大学全体の数値（93.2%）よりもやや高くなった。幼児教育学科は、学科の特性からみて学生の志望と入学した学問分野が一致する傾向が高くなると考えられるが、実際に興味関心と一致していると回答した学生が 90%を超えており、これからの学修に対して一定の興味関心を持った学生が入学してきたと言える。

これからもこの大学で学び続ける意思がありそうか

項目 4「大学／短大生活をどのくらい楽しみにしていますか」（表 3-1）

有効回答数：48 名分

- ①とても楽しみ：18 名（37.5%）
- ②まあまあ楽しみ：30 名（62.5%）
- ③あまり楽しみではない：0 名（0.0%）
- ④楽しみではない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 100%に達し、短期大学全体の数値（95.9%）よりも高く、全学科の中で最も高い数値となった。全員が、これからの大学生活を楽しみにしていると回答しており、今後の学修に対して一定の期待を持った学生が入学してきたと言える。

項目 9「大学／短大生活をどのように過ごすか具体的なイメージはありますか」（表 3-2）

有効回答数：48 名分

- ①ある：6 名（12.5%）
- ②まあまあある：24 名（50.0%）
- ③あまりない：18 名（37.5%）
- ④ない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 62.5%である。短期大学全体の数値（60.3%）よりもやや高いが、約 4 割の学生が今後の大学生活へのイメージを持てていないことを示している。この項目で問うているのは学修行動のみではないが、今後の指導に留意する必要があるかもしれない。

項目 22「あなたは金沢学院大学／金沢学院短期大学に入学してよかったと思いますか」（表 3-3）

有効回答数：48 名分

- ①とてもそう思う：29 名（60.4%）
- ②どちらかといえばそう思う：18 名（37.5%）
- ③あまりそう思わない：1 名（2.1%）
- ④まったくそう思わない：0 名（0.0%）

選択肢①と選択肢②の合計は 97.9%であり、短期大学全体の数値（93.5%）よりも高くなった。80%以上の学生が本学への入学に納得しており、これからも学び続けられる学生が入学したと言える。

評価

学修意欲、学修への興味関心、今後の学修や大学生活への期待感については、いずれも高い値を示した。学びへの意志のある学生が集まっており、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。ただし、今後の学生生活へのイメージ形成の低さについては、指導に留意する必要がある。

総合評価

以上の分析から、幼児教育学科ではアドミッションポリシーにかなう学生を入学させることができていると判断する。

3. 短期大学のアドミッションポリシーに関する総合評価

以上の各学科の評価からは、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えない。したがって、現在のアドミッションポリシーには不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていないと言える。

一方で、一部の学科における基礎学力の担保について、課題が残る。また、学生生活のイメージ形成の低さについても、新型コロナウイルス感染症が影響している可能性が予想されるものの、実際に入学者全体の約 4 割がイメージを持てていないことは事実である。食物栄養学科と幼児教育学科は、卒業時に資格取得を目指す学科であり、これらの学科においても大学生活へのイメージ形成が低いことを踏まえ、今後の指導に留意する必要がある。

II. カリキュラムポリシーの評価

1. 評価資料

2020 年度に開講されたすべての科目について、成績評価の内訳をすべて整理した。これらの科目を教育課程表に基づいて科目区分ごとに分類し、成績評価の内訳の比率（秀・優・良・可）とこれらを合わせた合格率（単位修得率）を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」の人数を基に、履修放棄率を算出した。履修取消は GPA の算出に影響しないこと、および期首に誤って履修単位数の上限を超えて登録したために取り消した学生が含まれていることから、分析においては「放棄」のみを対象とした。

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

①評価の対象とする科目

現代教養学科の科目群は、総合科目、基盤科目、コース科目となっている。これらの科目群をそれぞれ必修と選択に分けた。その結果、科目群ごとの科目数は、総合科目必修 7 科目・選択 3 科目、基盤科目必修 6 科目・選択 16 科目、コース科目必修 4 科目・選択 29 科目、合計 65 科目となった。

2019 年度にカリキュラムを改訂し、今回の分析では 2 学年ともに改訂後のカリキュラムとなるため、昨年度とは分類の方法を変更している。

②合格率と履修放棄率

総合科目の合格率の平均は、必修科目 97.1%，選択科目 95.1% で、10 科目の平均は 96.5% であった。昨年度の分析でこのカテゴリーに相当する総合科目の合格率は 97.3% であった。基盤科目の合格率の平均は、必修科目 97.0%，選択科目 93.1% で、22 科目の平均は 94.2% であった。昨年度の分析において対象とした、基盤科目の選択科目に含まれる語学科目の合格率の平均は、94.4% であった。今回の対象科目の中から語学科目のみ（9 科目）についてのみ合格率の平均を算出すると、91.9% となる。コース科目の合格率の平均は、必修科目 96.6%，選択科目 95.6% で、33 科目の平均は 95.7% であった。

合格率 100% であった科目は、総合科目 2 科目（20.0%）、基盤科目 5 科目（22.7%）、コース科目 12 科目（36.4%）、計 19 科目（29.2%）であった。昨年度の分析で対象とした 70 科目のうち、合格率 100% であった科目は 51 科目（72.9%）であったので、かなり数値が小さくなっている。

履修放棄率の平均については、総合科目では、必修科目 2.9%，選択科目 4.9% で、10 科目の平均は 3.5% であった。昨年度の分析でこのカテゴリーに相当する総合科目では、2.7% であった。基盤科目では、必修科目 3.0%，選択科目 3.9% で、22 科目の平均は 3.6% であった。合格率と同様に、語学科目についてのみ昨年度と比較すると、3.7%（昨年度 5.6%）であった。コース科目では、必修科目 2.8%，選択科目 3.3% で、33 科目の平均は 3.3% であった。履修放棄率が 20% を超える科目はなく、最大で 12.1%（語学科目に 1 科目）であった。全体の 40.0% に相当する 26 科目が、履修放棄率 0.0% である。

評価内訳については、成績評価が「秀」の比率がやや低く（14.2%）、残る「優（29.3%）」、「良（27.4%）」、「可（24.8%）」はほぼ均等である。昨年度は、いずれの科目群でも「良」の比率が 30～35% 程度となったが、今年度は基盤科目の必修科目のみ 35.6% と、30% を超えた。「秀」と「優」の合計は全体で 43.5% であった。

合格率が 70% に満たない科目や、履修放棄率が 20% を超える科目はなく、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。これより、評価対象としたカリキュラムに、学修計画の不備はないと判断する。

2-2. 食物栄養学科

①評価の対象とする科目

教養科目から必修2科目、専門科目39科目（4専攻分）を対象とした。専門科目を、さらに必修20科目と選択19科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

栄養教諭Ⅱ種の免許状取得に関わる教職科目は、分析から除外した。

②合格率と履修放棄率

教養必修科目の合格率の平均は、100.0%であった。これら2科目はいずれもキャリア教育科目である。専門科目の合格率の平均は、必修科目で99.6%、選択科目で98.3%となり、39科目の合格率の平均は99.0%（昨年度98.9%）であった。合格率が100%であった科目は、教養必修科目が2科目、専門必修科目が15科目、専門選択科目が10科目、合計で27科目（69.2%）であった。昨年度は、対象とした58科目のうち30科目（51.7%）が合格率100%であったので、昨年度より高くなった。41科目中39科目（95.1%）が合格率95.0%以上である。

履修放棄率については、教養必修科目の平均は0.0%、専門必修科目は0.1%、専門選択科目は0.4%と、いずれも1%未満の数値となっている。履修放棄率が最も高い科目でも4.3%である。この科目は合格率も最も低く93.6%（専門選択科目）で、合格率の低さは履修放棄者の数に影響されたものである。

評価内訳については、教養必修科目は2科目とも「秀」と「優」の比率が50%を超え、2科目合計で72.5%にのぼる。専門科目では、必修科目・選択科目のいずれにおいても、「優」以上か「良」以下に偏る科目がいくつか見られる。特に、専門必修科目に「良」以下の科目が4科目あり、最大で85.0%である。全体としては、「秀」が14.3%、「優」が32.5%、「良」が25.9%、「可」が26.4%となり、「秀」と「優」の合計は46.7%であった。

評価がやや低めに偏る科目が複数見られるものの、すべての科目で合格率は90%を超え、履修放棄率は5%未満となっており、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。卒業時の栄養士資格取得に向けて、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。成績評価が低い方へ集中している科目については、今後学生の状況等を精査する。

2-3. 幼児教育学科

①評価の対象とする科目

幼児教育学科の学科の科目群は、教育科目と専門科目となっている。これらの科目群をそれぞれ必修と選択に分けた。その結果、科目群ごとの科目数は、教育科目必修 4 科目・選択 4 科目、専門科目必修 39 科目・選択 9 科目、合計 56 科目となった。

②合格率と履修放棄率

合格率の平均は、教育科目では、必修科目が 100.0%，選択科目が 97.3%であった。全体の平均は 98.6%（昨年度 97.1%）であった。専門科目では、必修科目が 99.9%，選択科目が 98.5%であった。全体の平均は、99.6%（同 98.4%）であった。対象としたすべての科目で、合格率は 90%を超えた。合格率 100%の科目は、教育科目では、必修科目 4 科目、選択科目 2 科目、合計 6 科目で、比率は 75.0%（同 66.7%）であった。専門科目では、必修科目 38 科目、選択科目 7 科目、合計 45 科目で、比率は 93.8%（同 50.0%）であった。

履修放棄率の平均は、教育科目では、必修科目が 0.0%，選択科目が 1.7%であった。教育科目全体の平均は 0.8%（同 2.9%）で、履修放棄があったのは 8 科目中 1 科目 2 名のみであった。専門科目では、必修科目が 0.0%，選択科目が 1.1%であった。専門科目全体の平均は 0.2%（同 1.6%）で、履修放棄があったのは 48 科目中 2 科目計 3 名のみであった。全体に履修放棄率は極めて低い値である。

評価内訳については、教育科目の「秀」と「優」の比率が、必修科目で 53.3%，選択科目で 53.6%となっている。評価ごとに比較すると、必修科目では「良」の割合が最も高く（29.9%），選択科目では「秀」の割合が最も高い（31.0%）。専門科目の「秀」と「優」の比率は、必修科目では 50.7%，選択科目では 41.4%であった。評価ごとに比較すると、必修科目では「優」の割合が最も高く（36.3%），選択科目では「良」の割合が最も高い（39.8%）。選択科目の「良」の割合の高さは、教育実習関連科目の評価の影響が大きい。対象としたすべての科目を通して、「秀」は 15.7%，「優」は 33.7%，「良」は 32.3%，「可」は 17.7%となり、「優」と「良」の比率が高い。

対象とした科目の合格率はすべて 90%を超え、また履修放棄率も 10%を超える科目はなく、学生は順調に学んでいると言える。

総合評価

本学科では、学年進行に伴って継続して学修に取り組んでいることがわかる。保育士・幼稚園教諭 2 種の資格取得に向けて、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。成績評価が低い方へ集中している科目については、今後学生の状況等を精査する。

3. カリキュラムポリシーに関する総合評価

短大においては、カリキュラム（教育課程）は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。また、食物栄養学科および幼児教育学科においては、卒業時に資格（栄養士、保育士・幼稚園教諭2種）を取得することを前提として、カリキュラムが編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまづきを誘発する要素（その段階にそぐわない内容や難易度）があると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。

したがって、カリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた成績の低評価への強い偏りについては、今後の精査を必要とする。

Ⅲ. ディプロマポリシーの評価

1. 評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、卒業研究に相当する科目を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。

②卒業率（2年での学修達成率）

2019年度に入学し、2020年度に2年間で教育課程を修了して卒業した学生の数、その学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。

③就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。

2. 各学科の評価

2-1. 現代教養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

現代教養学科では、「基礎ゼミⅢ」が卒業研究に相当する。43 名が履修し、合格率は 97.7%（放棄 1 名）であった（昨年度 100.0%）。成績評価は、「秀」が 2.3%（昨年度 8.8%）,「優」が 23.3%（同 23.5%）,「良」が 20.9%（同 32.4%）,「可」が 51.2%（同 35.3%）である。「秀」と「優」を合わせて 25.6%（同 32.4%）であった。昨年度に比べ、「可」の比率が高くなり、履修者全体の半数を占める。その他の評価はすべて昨年度よりも下がっており、昨年度比で成績は下方に集中している。

②卒業率（2 年での学修達成率）

2019 年度に入学した学生は 44 名であった。このうち 95.5%に相当する 42 名が、2 年間で教育課程を修了し 2020 年度に卒業した。2019 年度の卒業率は、94.4%であった。

③就職内定率

就職希望者 38 名の全員が内定を得た（内定率 100.0%）。

総合評価

卒業研究のテーマは、入学してから「総合科目」、「基盤科目」、「コース科目」を学んだ上で、各自が興味を持った内容である。2 年間の学修成果として十分であるといえるが、放棄が 1 名いたことと、「可」評価が全体の半数を超えたことについては、今後の精査を必要とする。

以上①から③までの評価に基づき、2020 年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-2. 食物栄養学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

該当する科目なし。

②卒業率（2 年での学修達成率）

2019 年度に入学した学生は 42 名であった。このうち 95.2%に相当する 40 名が、2 年間で教育課程を修了し 2020 年度に卒業した。2019 年度の卒業率は、93.8%であった。

③就職内定率

就職希望者 36 名の全員が内定を得た（内定率 100.0%）。

総合評価

以上②、③の評価に基づき、2020 年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

2-3. 幼児教育学科

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

幼児教育学科の「卒業研究」は 30 名が履修し、合格率は 100%（昨年度と同じ）であった。成績評価は、「秀」が 13.3%（昨年度 34.5%）,「優」が 53.3%（同 24.1%）,「良」が 23.3%（同 34.5%）,「可」が 10.0%（同 6.9%）である。「秀」と「優」を合わせて 66.7%（同 58.6%）で、昨年度に比べ高い評価が増えている。

②卒業率（2 年での学修達成率）

2019 年度に入学した学生は 34 名であった。このうち 88.2%に相当する 30 名が、2 年間で教育課程を修了し 2020 年度に卒業した。2020 年度の卒業率は、93.5%であった。

③就職内定率

就職希望者 30 名の全員が内定を得た（内定率 100.0%）。

総合評価

以上①から③までの評価に基づき、2020 年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

3. ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、短大においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないといえる。